

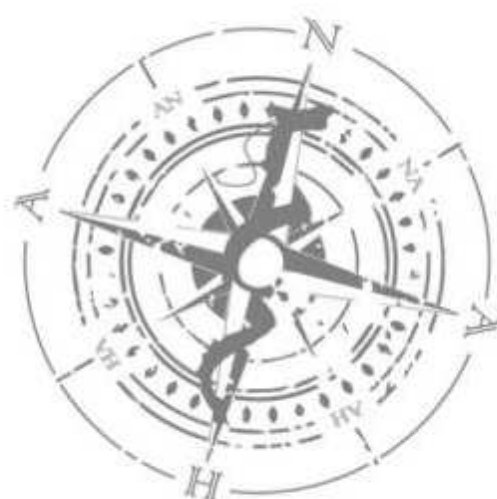
NAHA City Design Compass

みんなで継承

みんなで作る

亜熱帯庭園都市なはの景観

那覇市建築デザインマニュアル



目 次

那覇市の景観ビジョン	1
デザインマニュアルの体系について	2
序章	3

- 建築デザインマニュアルの目的
- 建築デザインマニュアルの目標
- 上位計画について
- 景観計画と建築デザインマニュアルの関わり

種別デザインマニュアル

1. 戸建て住宅	8
【位置等】 1-1 壁面後退	9
1-2 車庫 【建築コラム：雨水の地下浸透について】	10
【形態意匠】 1-3 色彩	12
1-4 屋根	14
1-5 屋外設備	15
【緑化等】 1-6 塀・生け垣	17
1-7 屋上・壁面緑化 【建築コラム：植栽で緑豊かな景観づくり】	18

2. 共同住宅	20
【位置等】 2-1 玄関アプローチ	21
2-2 駐車場	22
【形態意匠】 2-3 色彩 【建築コラム：外壁のメンテナンス】	24
2-4 屋根 【建築コラム：瓦屋根のメンテナンス】	26
2-5 壁面 【建築コラム：花ブロックの活用による空間づくり】	28
2-6 屋外設備	30
【緑化等】 2-7 塀・生け垣	32
2-8 屋上・壁面緑化	33

3. 商業系施設	34
【位置等】 3-1 壁面後退	35
3-2 玄関アプローチ 【建築コラム：歴史性への配慮】	36
3-3 駐車場	38
【形態意匠】 3-4 色彩 【建築コラム：賑わいを呼ぶ通りのデザイン】	40
3-5 壁面	42
3-6 屋外設備 【建築コラム：屋外設備機器の工夫】	44
3-7 広告	45
【緑化等】 3-8 屋上・壁面緑化 【建築コラム：スリット植栽帯による修景】	46

資料編	48
■ 赤瓦の活用事例	
■ 石材の活用事例	
■ 花ブロックの活用事例	
■ その他の素材の活用事例	

那覇市の景観ビジョン

—まちづくりの基本理念—

なはが好き！

みんなで創ろう子どもの笑顔が輝くまち

～亜熱帯の自然と文化が息づく、自治・協働・平和都市をめざして～

「第4次那覇市総合計画」より



—景観づくりの理念—

めざす
景観

**みんなで継承、みんなで作る
「亜熱帯庭園都市」なはの景観**

「那覇市景観計画」より



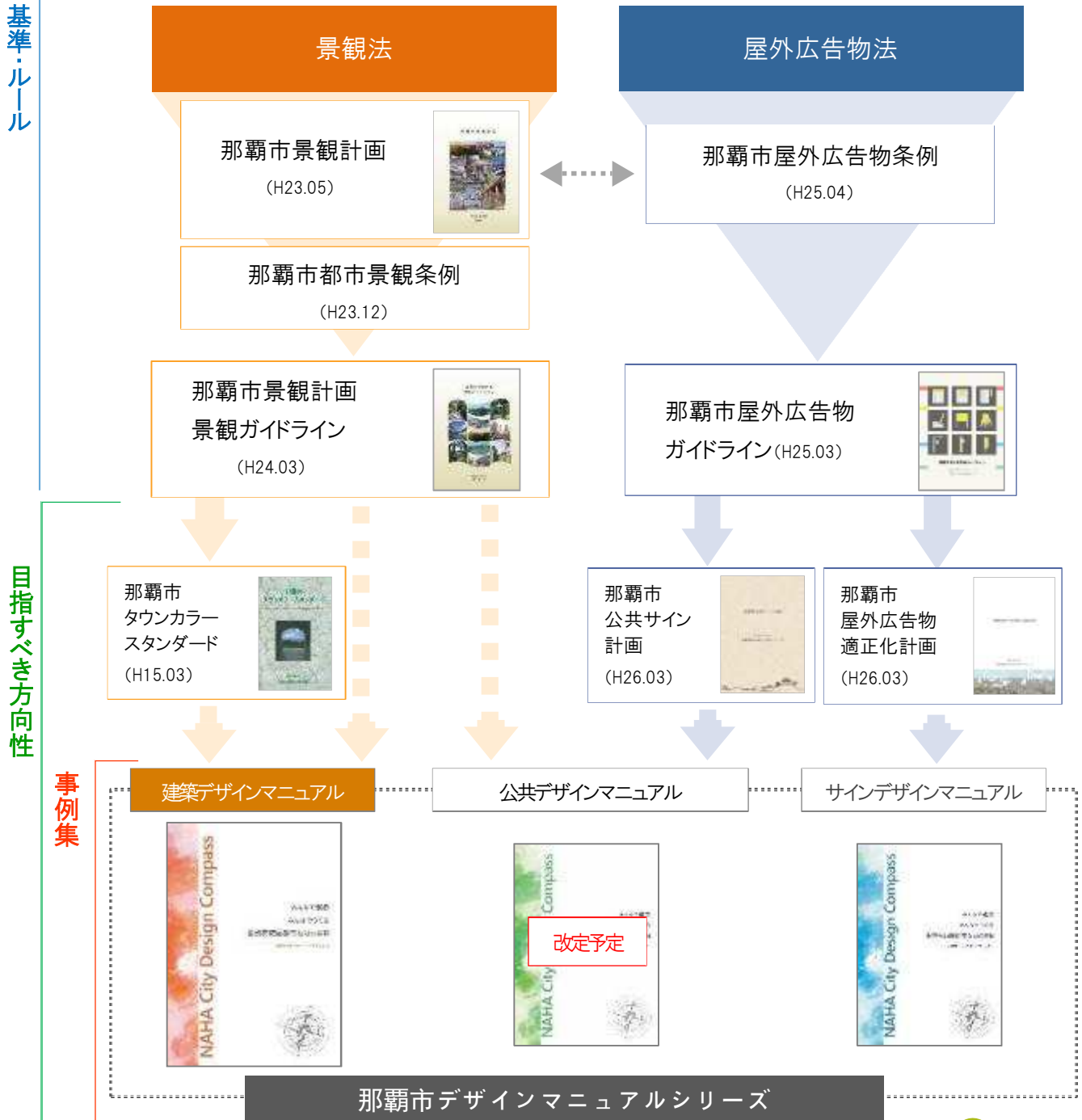
この理念の実現に向け、以下5つの基本目標を掲げています。

1. 固有の風土(亜熱帯固有の水・緑・微地形変化など)をいかした景観をつくる
2. 固有の歴史・文化(王都)を守り、いかす景観をつくる
3. 国際的な交流・交易、観光都市機能を持つ、県都として風格のある景観をつくる
4. 地域の資源や生活文化などをいかした景観をつくる
5. 市民との協働による景観づくりの活動を広げる

デザインマニュアルの体系について

本デザインマニュアルシリーズは、法や条例などの基準・ルールを基に、建築やサイン、公共の構造物の分野において、周辺景観と調和のとれた整備事例や目指すデザインのあり方を示したものです。

建築やサイン、公共の構造物などの新築・新設・改修時に、よりよい発想と創意工夫のヒントとして活用してください。



デザインマニュアルシリーズの連携による
“「亜熱帯庭園都市」なはの景観”を創出

序章

■建築デザインマニュアルの目的

「建築デザインマニュアル」は策定から 25 年余りが経過しており、社会状況等の変化や現状の課題に即した事例に対応していく必要があることから、同マニュアルの改定を行う事となりました。

平成 16 年に制定された景観法を受け、「那覇市景観計画」では景観づくりの理念『みんなで継承、みんなでつくる【亜熱帯庭園都市】なはの景観』を設定しており、「那覇市景観計画景観ガイドライン（以下「景観ガイドライン」という）」では、那覇市全域に対し、共通のガイドラインとして建築物及び工作物に関する景観形成基準や“戸建て住宅”“共同住宅”“商業施設”“公共施設”に関する修景のポイントを示しています。



建築デザインマニュアル
(平成元年)

これらを踏まえ「建築デザインマニュアル」では、周辺景観と調和のとれた整備を行う上で、よりよい発想と創意工夫のヒントを集約し、具体的に実践するための手引きとなり、「景観ガイドライン」で示す全エリア共通の景観形成基準の位置づけや修景ポイントを補完する手引きとして位置づけ、全エリア共通の考え方を整理します。

「建築デザインマニュアル」とは

建物の設計に関わる施主、設計士、行政はもちろんのこと、市民のみなさまが、那覇らしい建物のあり方に興味を持ち、それぞれの立場から建築景観の向上を図るための手引書です。

■建築デザインマニュアルの目標

改定版の「建築デザインマニュアル」では、現行の「建築デザインマニュアル」における建築デザインの目標や設計の考え方等を踏襲し、現状の課題に即した建築デザイン事例を取りまとめます。

亜熱帯庭園都市創造のためのデザイン

南島の光と陰、雨と風といった風土と基盤に育まれ、継承されてきたそれぞれの地域特性を保全するとともに、周辺景観に調和し、ここちよい変化と統一性を感じる都市の創造を目指します。

■上位計画について

【那覇市景観計画】

景観法第8条に基づき、地域固有の良好な景観の形成を推進するための基本事項を定めた計画です。景観計画の目標や地域特性による区域区分の設定、建築物等の形態意匠などの基準や行為の制限に関する事項などを定めております。



【那覇市景観計画景観ガイドライン】

景観づくりの主役である市民をはじめ、事業者及び各行政機関を含めた方々に対し、「那覇市景観計画」で示した良好な景観形成に関する方針や景観形成基準などについて、共通の認識をもつことができるよう、図や写真を用いて解説しております。

【那覇市タウンカラースタンダード】

那覇市では、『亜熱帯庭園都市の彩りをきわだたせるコーラルホワイトのまちづくり』をテーマに亜熱帯島嶼地域の自然環境、特色ゆたかな文化風土をいかした色づかいによって、美しく個性ある景観形成を目指しています。

「那覇市タウンカラースタンダード」は、那覇市全域のすべての建造物を対象とし、建造物以外にも、都市景観を形成する土木施設などもその対象となっています。

地区の性格に応じてふさわしい色を設定するためのエリア区分を行い、各エリアに基づく配色イメージや基調色の範囲等について示すことで都市レベルにおける統一感の創出を図ります。

▼「那覇市景観計画」、「那覇市景観計画景観ガイドライン」、「那覇市タウンカラースタンダード」に関するホームページ



詳しくはこちらをご覧ください



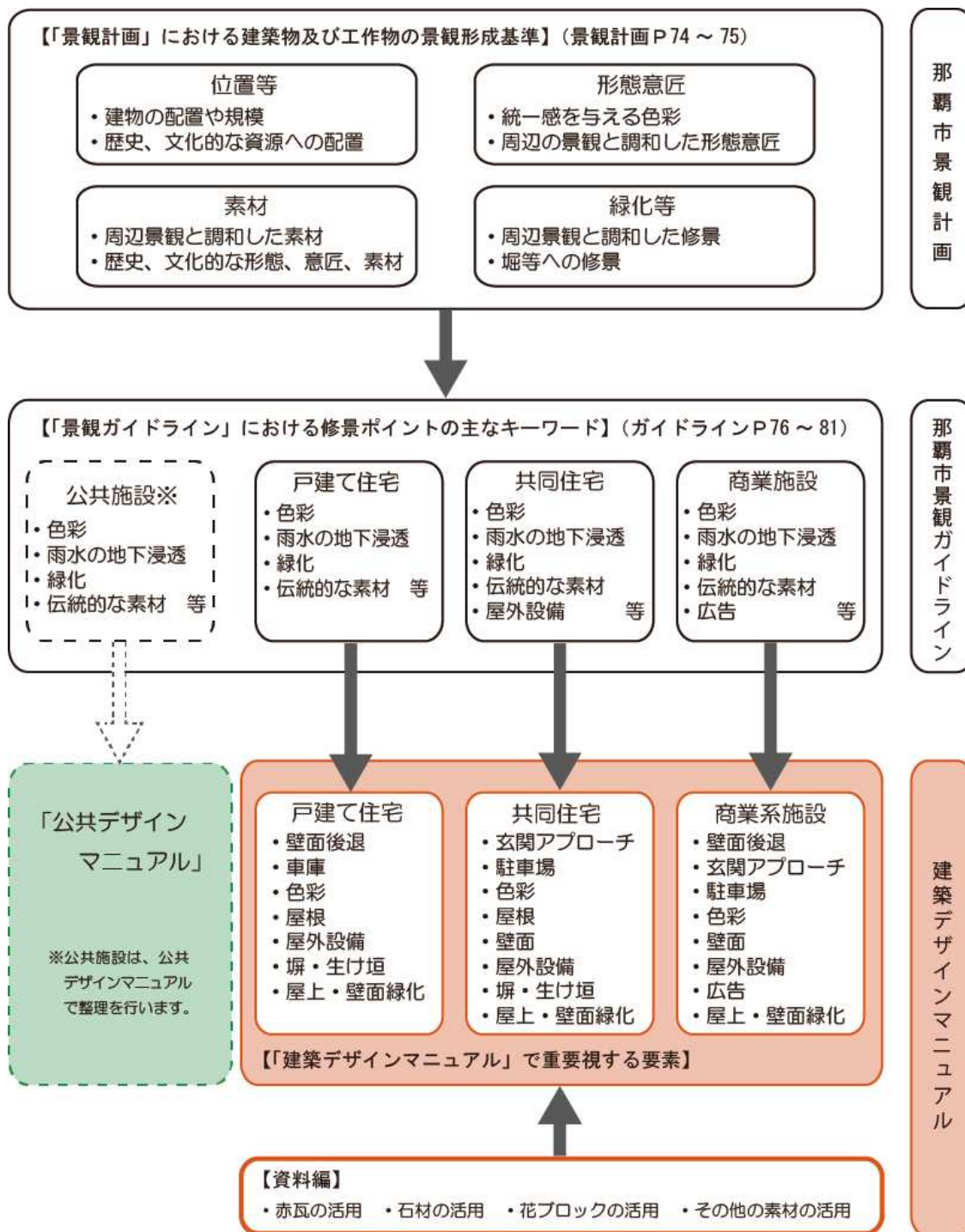
那覇市景観行政について

検索

<http://www.city.naha.okinawa.jp/kakuka/tokei/keikangyousei.html>

■景観計画と建築デザインマニュアルの関わり

「建築デザインマニュアル」は、「景観ガイドライン」で示す全エリア共通の景観形成基準の位置づけや修景ポイントを補完する手引きとして位置づけることから、建築物及び工作物における景観形成基準に関する部位と「景観ガイドライン」における修景ポイントのキーワードを抽出し、「建築デザインマニュアル」で重要視する要素をとりまとめます。





種別デザインマニュアル

1 戸建て住宅

2 共同住宅

3 商業系施設





1. 戸建て住宅

戸建て住宅を構成する重要な要素を 3 つに分類し、ゆとりと潤いある都市景観の観点から配慮すべき事柄の実現に向けて、それぞれの要素について具体的な事例を紹介します。

戸建て住宅は、落ち着いた住居環境を大切にするとともに、街並みと調和し、亜熱帯の緑豊かなデザインを心がけることが重要です。

【戸建て住宅で重要視する要素】

位 置 等： 壁面後退、車庫
形 態 意 匠： 色彩、屋根、屋外設備
緑 化 等： 塀・生け垣、屋上・壁面緑化

一般的な戸建て住宅修景事例



歴史的地区での戸建て住宅修景事例



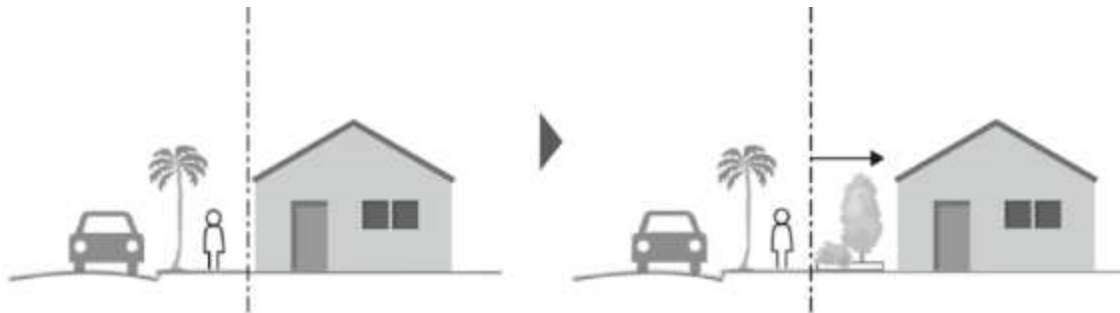
位置等

1-1 壁面後退 (景観ガイドラインP44)

デザインの Point

- ◆ 道路空間などから、建築壁面を後退することで、通りへの圧迫感が軽減できます。
- ◆ 壁面後退による空間を緑化することで、潤いのある街並み景観を創出することができます。

壁面後退イメージ図



壁面後退による圧迫感軽減への配慮



隣接する住宅の壁面の位置を揃えるように壁面後退を行うことで、道路を広く見せ、通りへゆとりをもたらします



道路沿いに建ち並ぶ住宅それぞれが同様に壁面後退を行い、車庫と緑化を組み合わせることで、潤いある景観を創出

壁面後退による緑化空間の創出



住宅前面部分を壁面後退させ、緑化空間を創出



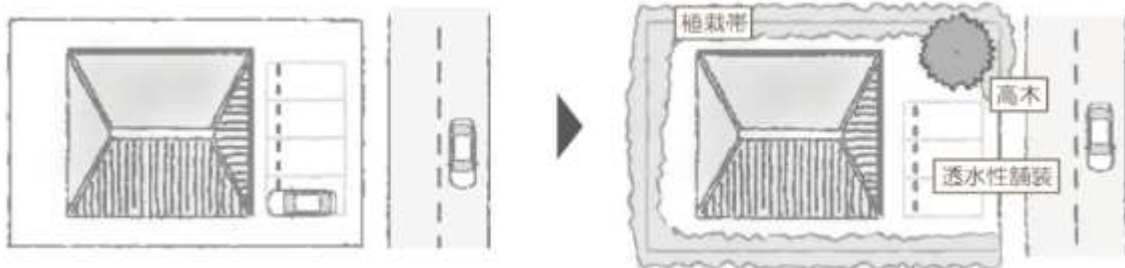
壁面後退部分を花壇として活用し、通りに潤いを創出

1-2 車庫（景観ガイドラインP62）

デザインの Point

- ◆ 駐車スペースの地面に芝生などを活用することで、雨水の浸透性を高める効果があります。
- ◆ 車庫は周辺景観に影響を与える要素となることから、車が道路から見えにくいような工夫や広がりのある枝ぶりの高木で目立たなくする工夫をしましょう。

車庫イメージ図



駐車スペースの目地



駐車スペースは、洗い出しや化粧目地でデザインし、わずかなスペースを活用して緑化修景した事例



駐車スペースのわずかな部分を緑化し、雨水地下浸透に配慮した事例

植栽による緑陰の創出



駐車場の屋根部にツル性植物を這わせ、緑陰を創出

高木による緑陰の創出



車庫部分に高木を計画し、緑陰を創出



建築コラム

雨水の地下浸透について

舗装材に多孔質な素材を用いて雨水を自然に地中へ浸透させることで、雨水排水施設の負担軽減を図るとともに、周辺の樹木や草花の良好な生育を促すことができます。また、蒸散効果により気温を低下させ、ヒートアイランドの抑制にも貢献します。



雨水浸透樹



透水性側溝



透水性アスファルト



緑化ブロック

■事例集



敷地境界部分に透水性のある砂利敷を行った事例



コンクリート舗装に浸透性の目地を設けた事例

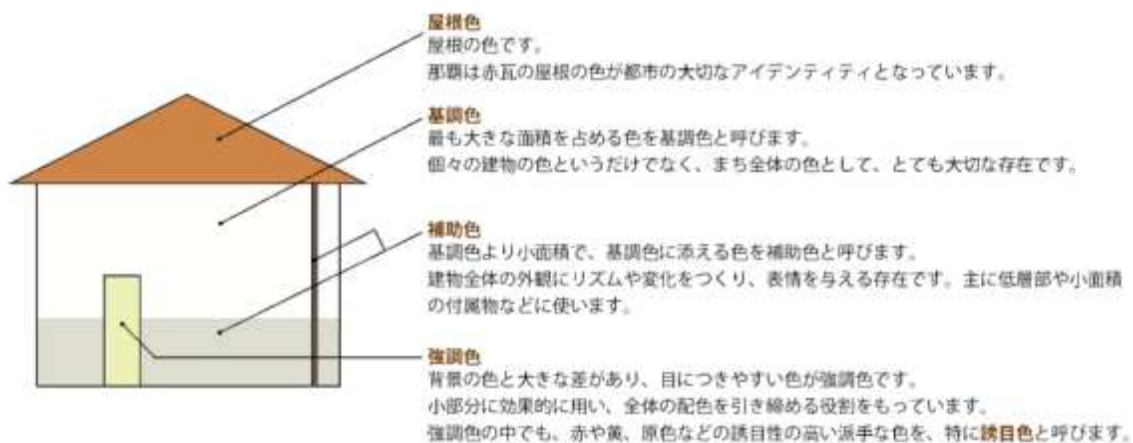
形態意匠

1-3 色彩（景観ガイドラインP48～54）

デザインの Point

- ◆ 建築物及び工作物の外観における基調となる色彩については、亜熱帯独特の自然の豊かな彩りが感じられるコーラルホワイト※を中心とした色彩や低彩度の色彩を使用することで、統一感のある都市景観がうまれます。
- ◆ 周辺の住宅と同様なデザインや色彩などに配慮することで、街並みの連続性や統一感がうまれます。
- ◆ アクセントカラーを小部分に効果的に用いることで、全体の配色を引き締める役割となります。また、素地色を生かした色彩とすることも効果的です。

※ 「コーラルホワイト」とは、那覇市のタウンカラースタンドアードのために、琉球石灰岩のソフトな白をイメージしてつくった言葉です。



基調色による街並みへの配慮



コーラルホワイトを中心とした色彩計画



基調色に薄桃色を採用し、アクセントカラーにも近似色を採用することで壁面の色彩を統一

同様なデザインや色彩に配慮した住宅地



屋根色、壁面共に色彩の統一を図ることで、街並みの連続性や統一感を創出



コーラルホワイト色の石垣(琉球石灰岩)と緑道、落ち着いた色彩の連続性により、良好な街並みを創出



壁面にコーラルホワイト色を用いることで、沿道空間の統一感を演出

アクセントカラーを活用した住宅



住宅の界壁部分にアクセントカラーを用いることで、全体の配色を引き締め、豊かな表情を創出



建築物の1階部分(低層部)に補助色を用いることで外観に変化を与えている

1-4 屋根（景観ガイドラインP55）

デザインの Point

- ◆ 建ち並ぶ住宅の屋根の形状や素材を統一感のあるデザインとすることで、調和した街並みとなります。
- ◆ 赤瓦などを活用することで、沖縄の文化を感じさせる景観となります。

統一感のあるデザイン



屋根の形態を勾配屋根で揃えることで、豊かなまちなみ空間を演出



赤瓦を活用し街並みの統一感を演出



屋根に高低差をつけ街並み景観にリズムを創出

赤瓦素材を活用した屋根



在来瓦を葺いた屋根



S型瓦を葺いた屋根

1-5 屋外設備（景観ガイドラインP58）

デザインの Point

- ◆ 室外機や高架水槽などの設備はルーバーなどを活用して修景することもできます。
- ◆ 給水設備に高架水槽を採用する場合は、できるだけ露出を避け、景観に配慮した計画としましょう。



室外機は、周囲から視認されにくいよう配慮する

室外機への配慮



ルーバーで室外機を隠した事例



手すり壁にルーバーを活用し、室外機を見せないように計画

高架水槽への配慮



アルミルーバーで軽やかに修景した事例



花ブロックを用いて修景した事例

物干しへの配慮



物干しは、周囲から視認されにくいよう配慮する



FRPグレーチングを活用し修景した事例（外部）



FRPグレーチングを活用し修景した事例（内部）



高木や中木などの緑化を活用し、物干し竿を隠している事例

緑化等

1-6 塀・生け垣 (景観ガイドラインP67)

デザインの Point

- ◆ 緑化による潤いを感じる演出に心がけることで、生活空間に潤いをもたらすことができます。
- ◆ 塀・柵などは生け垣や緑化することで、良好な街並みを形成するとともに、道路からの目隠し効果もあります。
- ◆ 自然素材と組み合わせた生け垣にすることで、沖縄らしさを演出することもできます。

道路沿いへの緑化



塀・生け垣とベランダ部に緑化し良好な街並みを形成



わずかなスペースを活用した緑化(敷地境界)



わずかなスペースを活用した緑化(道路境界)

1-7 屋上・壁面緑化（景観ガイドラインP56・60）

デザインの Point

- ◆ 屋上や壁面を緑化することで、良好な景観を創出し、生活空間に潤いをもたらすことができます。
- ◆ 屋上や壁面は周辺からよく見えることから、手入れも重要な要素となりますので、適切な維持管理に心がけましょう。

屋上緑化



芝を用いて屋上緑化を行った、心地よいテラス



勾配屋根に合わせて屋上緑化を行うことで、遠方からの景観にも配慮

壁面緑化



壁面を全面的に緑化することで亜熱帯庭園都市を体現



建物の一部に緑化を施すことで建築物に潤いを創出



鋼製の手すりにブーゲンビリアを登はんさせ、壁面緑化を行い良好な景観を形成



建築コラム

植栽で緑豊かな景観づくり

緑化を楽しもう

住宅の周囲を緑豊かな植栽にすることで、外から見ても、内から見ても爽やかな景観をつくることができます。高木、中木、低木、草花、ツタ、ツルなどの植物を活用して、緑化に取り組みましょう。



シンボルツリーに適した植物は？！

街並みや景観に良い影響をもたらすシンボルツリーは、植樹する庭と樹高や樹冠、樹形のバランスに気を付けた計画とすることが大切です。また、常緑樹と落葉樹を上手に組み合わせることで、四季を楽しむことができます。



シマトネリコ



ソウシジュ



コガネノウゼン(イPPER)

壁面緑化に適した植物は？！

壁面緑化では成長の早いツル植物を用いることで、緑豊かな景観が創出できます。また、常緑樹を採用することで一年中壁面緑化を楽しむことができます。季節感を楽しむため、落葉樹を選択する場合は近隣への気配りをお願いします。



カエンカズラ



ブーゲンビレア



オオイタビ



2.共同住宅

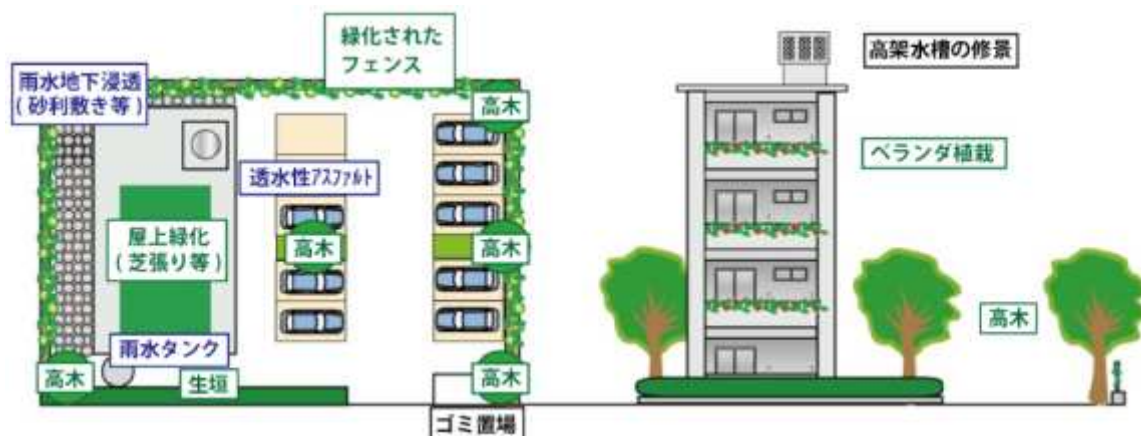
共同住宅を構成する重要な要素を 3 つに分類し、ゆとりと潤いある都市景観の観点から配慮すべき事柄の実現に向けて、それぞれの要素について具体的な事例を紹介します。

共同住宅は、比較的大きな建物となるため周辺環境との調和や長大な壁面の分節化、壁面後退と緑化計画などが重要となります。

【共同住宅で重要視する要素】

位 置 等： 玄関アプローチ、駐車場
 形 態 意 匠： 色彩、屋根、壁面、屋外設備
 緑 化 等： 塀・生け垣、屋上・壁面緑化

一般的な共同住宅修景事例



歴史的地区での修景事例





位置等

2-1 玄関アプローチ (景観ガイドラインP61)

デザインの Point

- ◆ 建物の顔となる玄関は、緑化などによる豊かな空間を形成することにより、魅力ある建築物となります。
- ◆ 建物をセットバックさせることで、ゆとりのあるアプローチ空間が生まれます。

ゆとりのある玄関アプローチ空間



建築物のポーチ部分に植栽スペースを設け、潤いのあるアプローチ空間を創出



建築物のポーチ部分にアプローチ空間を設け、赤瓦屋根を載せることで情緒ある空間を演出



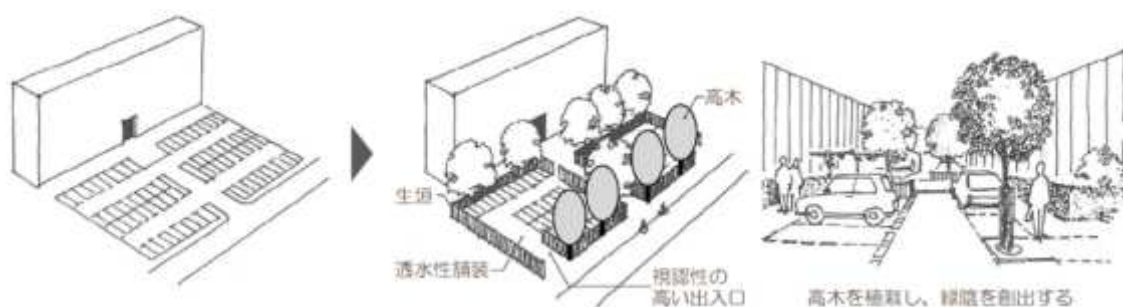
建築物の前面に緑豊かな散策路を設け、魅力あるアプローチ空間を創出



2-2 駐車場（景観ガイドラインP63～64）

デザインの Point

- ◆ 共同住宅の駐車場は多くの車両が駐車するため、駐車場の出入り口を集約化することで街並みの連続性や安全性に繋がります。
- ◆ 無機質になりがちな駐車場空間において、積極的な緑化を図ることで、施設に潤いを与える効果があります。
- ◆ 駐車場の地面に芝生などを活用することで、雨水を地下浸透させ、環境配慮にもつながります。
- ◆ 高木を植栽することで、緑陰を創出することができます。



出入口を集約化した駐車場



駐車場の出入口を1か所に集約し、歩行者への安全面に配慮



駐車場の出入口を1か所に集約し、車止めを計画することで歩行者への安全面に配慮

道路面・隣地に配慮した駐車場



駐車場と道路の間に植栽を施し、道路から車が見えないよう計画を行うことで、潤いのある駐車場空間を創出



生垣を計画することで、隣地へ配慮するとともに、緑あふれる駐車場空間を創出



駐車場面の緑化



駐車スペースに影響のない範囲で部分的に緑化



芝ブロックを用いて駐車場面を緑化

緑陰づくりに配慮した駐車場



駐車場の一部に高木を等間隔に植栽し、連続した緑陰を創出



駐車場の屋根部にツル性植物を這わせ、緑陰を創出



樹冠の大きな高木を植栽し、大きな緑陰を創出



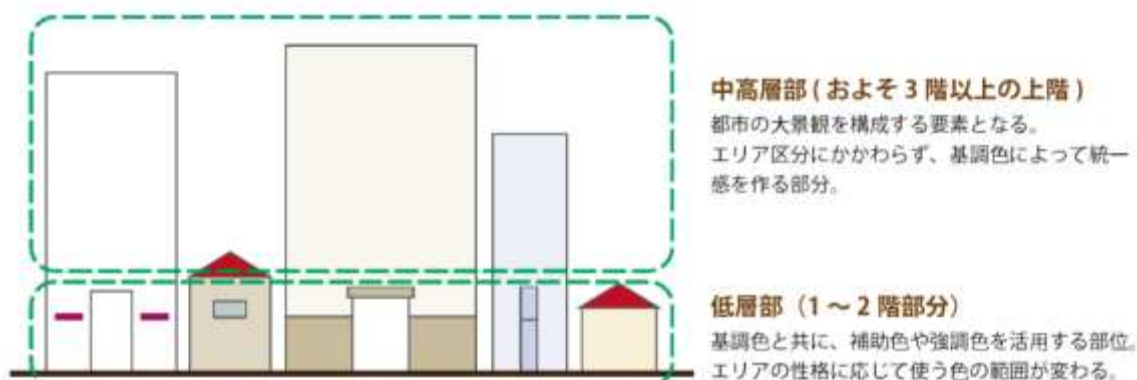
形態意匠

2-3 色彩（景観ガイドラインP48～54）

デザインの Point

- ◆ 建築物及び工作物の外観における基調となる色彩については、亜熱帯独特の自然の豊かな彩りが感じられるコーラルホワイト※を中心とした色彩や低彩度の色彩を使用することで、統一感のある都市景観が生まれます。
- ◆ 建築物の中高層部に基調色を使用することで、街並みに連続性や統一感が生まれます。
- ◆ 建物の低層部に補助色や強調色を活用することで、建築物の表情をつくりだすことができます。
- ◆ アクセントカラーを小部分に効果的に用いることで、全体の配色を引き締める役割となります。また、素地色を生かした色彩とすることも効果的です。

※ 「コーラルホワイト」とは、那覇市のタウンカラースタンダードのために、琉球石灰岩のソフトな白をイメージしてつくった言葉です。



中高層部に基調色、低層部に補助色・強調色を使用した例



大規模な壁面の圧迫感を軽減するため、壁面の塗り分けを工夫



低層部には補助色による壁面の塗り分け、中高層部には赤瓦による屋根色がアクセントカラーとなり、色彩計画を通して建物全体を演出



アクセントカラーを活用した共同住宅



縦型の樋隠しにアクセントカラーを用いることで、建築物の表情を創出



色彩の濃淡を使い合わせることで、落ち着いた表情を創出

建築コラム

外壁のメンテナンス

外壁をコンクリート打放し仕上げにする場合は、撥水剤等を塗布することで、外壁の防水性、耐久性を向上させます。また、美観を維持するためにも外壁をメンテナンスすることは有効です。



メンテナンス前



メンテナンス後



2-4 屋根（景観ガイドラインP55）

デザインの Point

- ◆ 建ち並ぶ住宅の屋根を統一感のあるデザインとすることで、調和のとれた街並みとなります。
- ◆ 赤瓦などを活用することで、沖縄の文化を感じさせる景観となります。

赤瓦素材を活用した屋根



赤瓦を用いた屋根により伝統的な街並みに配慮



赤瓦屋根を部分的に採用



連続した屋根が街並みにリズムを創出



陸屋根



屋根に高低差をつけ街並みにリズムを創出



連続した屋根が街並みにリズムを創出



建築コラム

瓦屋根のメンテナンス

軒樋、雨樋を設けることで、屋根小口面の汚れを比較的防ぐことができます。また、小口面は、明度を落とした色で塗装することで、汚れを目立たなくすることができます。



軒樋、雨樋がない場合



軒樋、雨樋がある場合



2-5 壁面

デザインの Point

- ◆ 壁面やベランダは、それぞれの建物の存在や個性を表出するため、都市景観への影響も多大です。そのため、街並みの連なりや調和に配慮することが求められます。
- ◆ 壁面を操作することで、建物の圧迫感を和らげたり空間にリズムをつけたりすることができます。
- ◆ マンション等の大規模な壁面は分節化や雁行させるなど、建物の圧迫感を和らげる工夫をし、周辺環境と調和した形態意匠としましょう。
- ◆ ベランダやバルコニーは、緑化に努め、きめ細やかな表情づくりを工夫しましょう。

圧迫感軽減に配慮した壁面



アクセントカラーを用いた縦型の樋隠しにより壁面を分節し、ボリュームを小さくみせることにより圧迫感を軽減



【出典：地域のイメージを活かす景観色彩計画
日本カラーデザイン研究所 学芸出版社 2008 年】

ベランダや手すり壁などの外壁面を低層部から高層部に塗り分けることにより、単調さを回避し、圧迫感を軽減



花ブロックと鋼製の手すりをを用いて壁面に程よいリズムをつけ、表情を豊かにすることで壁面の圧迫感を軽減



建築コラム

花ブロックの活用による空間づくり

もしもデザイン

壁面の大部分が壁なら・・・

共同住宅など、比較的大きな建物においては、壁面を大きくしすぎると、周辺に圧迫感を与えることとなります。



加工写真

花ブロックを活用することで
圧迫感が軽減できる！



花ブロックを全面に用いることで、壁面に軽い印象を与え、街並みを崩さず魅力的な空間をつくりだすことができます。



2-6 屋外設備（景観ガイドラインP58）

デザインの Point

- ◆ 室外機や高架水槽などの設備はルーバーなどを活用して修景することもできます。
- ◆ 給水設備に高架水槽を採用する場合は、できるだけ露出を避け、景観に配慮した計画としましょう。



室外機は、周囲から視認されにくいよう配慮する

室外機への配慮



銅製の横型ルーバーで室外機を隠した事例



目隠し壁により室外機を隠した事例

高架水槽への配慮



アルミルーバーで隠した事例



コンクリートで隠した事例



物干しへの配慮



物干しは、周囲から視認されにくいよう配慮する



物干しをバルコニーの手すりで隠した事例



物干しをアルミルーバーで隠した事例



物干しをバルコニーの手すりで隠した事例



緑化等

2-7 塀・生け垣（景観ガイドラインP67）

デザインの Point

- ◆ 緑化による潤いを感じる演出に心がけることで、生活空間に潤いをもたらすことができます。
- ◆ 塀・柵などは生け垣や緑化することで、良好な街並みを形成するとともに、道路からの目隠し効果もあります。
- ◆ 自然素材と組み合わせた生け垣にすることで、沖縄らしさを演出することもできます。

道路沿いへの緑化



道路沿いの狭小空間に緑化を行い、潤いのある景観となるよう配慮



塀を後退させた部分に、緑化空間を創出



壁面後退部分を花壇として活用し緑化を創出



2-8 屋上・壁面緑化（景観ガイドラインP56・60）

デザインの Point

- ◆ 屋上や壁面を緑化することで、良好な景観を創出し、生活空間に潤いをもたらすことができます。また、遠望からの景観に配慮することができます。
- ◆ 屋上や壁面は周辺からよく見えることから、手入れも重要な要素となりますので、適切な維持管理に心がけましょう。

屋上緑化



屋上の一部を緑化した事例



建物の中層部を活用した緑化の事例

壁面緑化



コンクリート手すり壁のスリット部分から覗くブーゲンビレアが、通りの潤いを創出



鋼製手すりの部分から覗く植栽が通りの潤いを創出



壁面に力強く登はんするブーゲンビレアが通りの景観に活気を演出



3.商業系施設（事務所・ホテル・工場・倉庫等）

商業系施設を構成する重要な要素を 3 つに分類し、ゆとりと潤いある都市景観の観点から配慮すべき事柄の実現に向けて、それぞれの要素について具体的な事例を紹介します。

商業系施設は、街並みの賑わいを形成する上で重要な建物であります。訪れる人や道行く人が、楽しく感じる雰囲気大切にするとともに、賑わいを感じるデザインに心がけることが重要です。

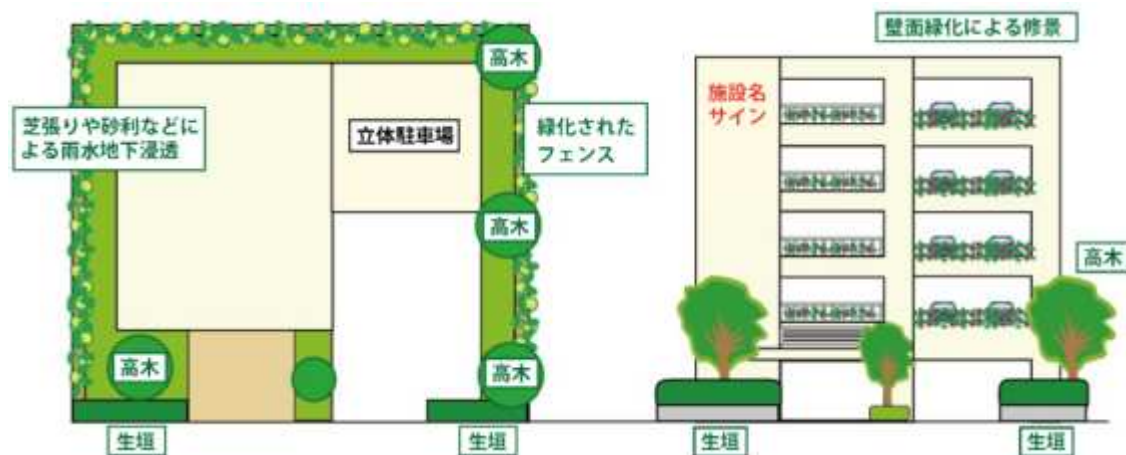
【商業系施設で重要視する要素】

位 置 等： 壁面後退、玄関アプローチ、駐車場

形 態 意 匠： 色彩、壁面、屋外設備、広告

緑 化 等： 屋上・壁面緑化

商業系施設修景事例



歴史的地区での商業系施設修景





位置等

3-1 壁面後退 (景観ガイドラインP44)

デザインの Point

- ◆ 壁面を後退させ、緑化を創出させることで、より潤いある道路空間が演出できます。
- ◆ イベントが行われる広場のような公開空地を設けることで、地域のにぎわい空間が演出でき、各種イベント等に活用することができます。
- ◆ 公開空地内に植栽等を計画することで、豊かな空間を演出することができ、ゆとりのある歩行空間や休憩場所が生まれます。

壁面後退



壁面を後退させ植栽を計画することで、潤いのある道路空間を演出



隅切りによる安全な歩行空間の確保

公開空地



公開空地内ではイベント等も行えるような計画とし、街並みのにぎわいを創出



公開空地内に植栽を計画し、豊かなアプローチ空間を形成



3-2 玄関アプローチ (景観ガイドラインP61)

デザインの Point

- ◆ 店舗や事務所ビルの玄関アプローチ空間は、道行く多数の人を建物内に誘い、交流の場となります。
- ◆ 建築物のセットバック部分や玄関アプローチに魅力的な緑化やサイン、ベンチ等を活用することで、店舗の魅力が高まります。

植栽を活用した玄関アプローチ空間



ベンチと緑、オーニングによる豊かなアプローチ空間を創出



植栽と踏み石による豊かなアプローチ空間を創出

ゆとりのある玄関アプローチ空間



プランターユニットによる壁面緑化と広告を融合させ、緑豊かな玄関アプローチへと改修

【設計:株式会社エイムクリエイツ ファサード環境デザイン:古谷デザイン建築設計事務所】



建築コラム

歴史性への配慮

もしもデザイン

歴史性を感じる地域に

配慮しなかったら・・・

都市景観形成地域などに建物を建てる際には、赤瓦や自然素材の石等を用いることで伝統的な街並みに調和することができます。しかし、ブロック塀などを使用すると伝統的な街並みが感じられなくなります。



加工写真

沖縄らしい自然素材を活用
することで歴史性を感じる！



玄関ポーチに赤瓦や植栽、石などの素材をふんだんに用いることで、豊かなアプローチ空間をつくりだし、伝統的な街並みに調和します。



3-3 駐車場（景観ガイドラインP65）

デザインの Point

- ◆ 屋外の駐車場は、道路側に高木の植栽により、潤いのある景観を創出する計画をしましょう。
- ◆ 自走式立体駐車場は、ルーバー等の設置や樹木、生け垣、壁面緑化等による修景や建物に付随する場合は、その建物とうまく調和するような計画としましょう。
- ◆ 商業系施設の駐車場は多くの車両が駐車するため、駐車場の出入り口を集約化し、歩車分離を徹底することで街並みの連続性や安全性に繋がります。
- ◆ 大きなボリュームとなる場合には、圧迫感を軽減するため、色彩計画や壁面のデザイン工夫なども入念に行うことが重要です。
- ◆ 駐車場の地面に芝生などを活用することで、雨水を地下浸透させ、環境配慮にもつながります。

平面駐車場



駐車場の出入り口を集約化し、そのまわりに緑化を行うことで、良好な歩行空間を創出



道路側に生垣や高木植栽を行うことで、潤いのある駐車場空間を創出

タワー型駐車場



施設と駐車場が一体的に計画し、施設のバランスを整えている



色彩を工夫することで周囲への圧迫感を軽減



道路沿いに配慮した駐車場の緑化



ワイヤーを用い地面から緑化することで、外観だけでなく植物の生育にも配慮



ワイヤーメッシュを使用した壁面緑化



壁面側にプランタスペースを設けることで、駐車場壁面に表情の変化を与える



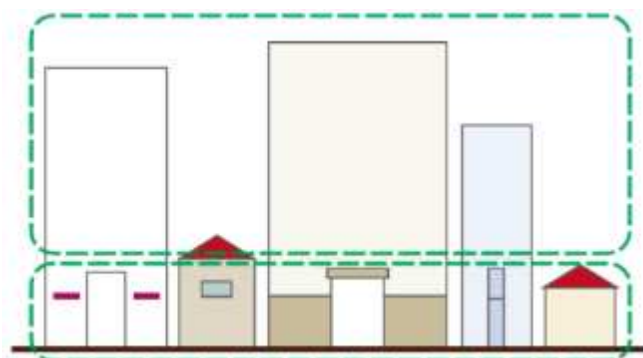
形態意匠

3-4 色彩（景観ガイドラインP48～54）

デザインの Point

- ◆ 建築物及び工作物の外観における基調となる色彩については、亜熱帯独特の自然の豊かな彩りが感じるコーラルホワイト※を中心とした色彩や低彩度の色彩を使用することで、統一感のある都市景観が生まれます。
- ◆ 建築物の中高層部に基調色を使用することで、街並みに連続性や統一感が生まれます。
- ◆ 建物の低層部に補助色や強調色を活用することで、建築物の表情をつくりだすことができます。
- ◆ アクセントカラーを小部分に効果的に用いることで、全体の配色を引き締める役割となります。また、素地色を生かした色彩とすることも効果的です。

※ 「コーラルホワイト」とは、那覇市のタウンカラースタンダードのために、琉球石灰岩のソフトな白をイメージしてつくった言葉です。



中高層部（およそ3階以上の上階）

都市の大景観を構成する要素となる。
エリア区分にかかわらず、基調色によって統一感を作る部分。

低層部（1～2階部分）

基調色と共に、補助色や強調色を活用する部位。
エリアの性格に応じて使う色の範囲が変わる。

低層部に補助色・強調色を使用した例



低層部に補助色、中高層部に基調色に塗り分けることで建築物の表情をつくりだす



店舗部分となる低層部にアクセントカラーを用い、上階の共同住宅部分には基調色を用い、都市景観に配慮



素材色を効果的に活かした事例



琉球石灰岩と樹木を活用し、良好な景観を形成



打ち出しコンクリートの素地色を生かし、杉板型枠を用いることで、外観に豊かな表情を演出



木の素地色を生かした外壁面とすることで、通りに潤いを創出

建築コラム

賑わいを呼ぶ通りのデザイン

通りに賑わいを演出するために歩行者の視界に入る 1 階部分に窓ガラスを活用し、連続性のある共通のデザインとすることで建物の内と外の透明性が上がり、賑わいを感じる仕掛けづくりができます。





3-5 壁面

デザインの Point

- ◆ 壁面は、街並みのスケール感に応じたきめ細やかな表情づくりを行うことで、建物の圧迫感を和らげたり空間にリズムをつけたりすることができます。
- ◆ 壁面の形態や素材は、それぞれの建物の存在や個性を表出し都市景観への影響も少なくありません。街並みの連なりや調和に配慮するとともに、低層部においては賑わいを生み出す工夫をしましょう。

壁面の形態



格子により大きな壁面を分割することで、圧迫感を軽減



1 階部分を共通のデザインとすることで、連続性のある商業空間を演出

素材の使い方



窓ガラスを活用し、大きな壁面の圧迫感を軽減



ガラスやコンクリート、石材など素材の組み合わせ



花ブロックを活用し、大きな壁面の圧迫感を軽減



赤瓦と同系色のスクリーンブロックにより、周囲との調和に配慮



街並みに配慮した壁面のボリューム



スカイラインをそらえた壁面の計画



道路に面する壁面の高さを抑え圧迫感を軽減



隣り合わせの建物の壁面の位置に配慮

工場・倉庫等の事例



縦ルーバーを用いて壁面に凹凸を作ることで、圧迫感を軽減



壁面にスリットを入れることで大きな壁面を分割し、圧迫感を軽減



3-6 屋外設備（景観ガイドラインP58）

デザインの Point

- ◆ 室外機や受水槽、屋上の設備機器については、できるだけ露出を避け、ルーバーなどを活用し、建物と一体的にデザインしましょう。

室外機への配慮



ルーバーで室外機を隠した事例



屋上の室外機は、目隠しルーバーを用いて遠景にも配慮

設備機器への配慮



建物の意匠を崩さずに設備機器を隠した事例



建物とルーバーを一体的な計画とし、意匠を崩さずに設備機器を隠した事例

建築コラム

屋外設備機器の工夫

屋外に設備機器を設ける場合は、設備機器が周囲の景観や雰囲気壊すことがないように配慮することが大切です。右の写真のように木材などを用いて設備機器を隠し、周辺の植栽帯と一体的に修景することで、良好な景観を保つことができます。





3-7 広告（景観ガイドラインP71～73）

デザインの Point

- ◆ 広告物は、建築物や周囲の環境と調和させるよう心がけましょう。
- ◆ 広告物の大きさや、色には十分注意しましょう。
- ◆ すっきりと見やすい広告物とするため、建築物の計画段階から広告(サイン)の配置計画をしましょう。

建築物と一体となった広告物



袖壁の一部をサインとした事例



木目調の外壁に合わせた分かりやすいサイン計画



設計時にサイン計画を行った事例



壁面緑化を行った外壁に合わせたサインの事例



緑化等

3-8 屋上・壁面緑化（景観ガイドラインP56・60）

デザインの Point

- ◆ 良好な景観を創出するため、屋上や壁面を緑化することで、生活空間に潤いをもたらすことができます。
- ◆ 屋上・壁面緑化を施すことで、遠望からの景観に配慮することができます。
- ◆ 屋上や壁面は周辺からよく見えることから、手入れも重要な要素となりますので、適切な維持管理を心がけましょう。

壁面緑化



屋上・壁面に緑化を行うことで、広場に潤いのある景観を創出



建物全体的に緑化を行うことで、潤いのある景観を創出



プランターユニットによる壁面緑化を行うことで、緑豊かな空間を創出



屋上緑化



遠望からの景観に配慮



芝を用いて屋上緑化を行うことで、心地良いテラスを計画

道路沿いへの緑化



銅製手すりの部分から覗く植栽が通りの潤いを創出

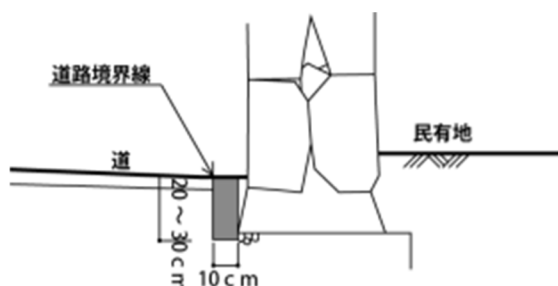


道路沿いに植栽帯を設け、良好な沿道空間を創出

建築コラム

スリット植栽帯による修景

植物はわずかなスペースでも、光、水、養分の条件が整えば、健全に生育します。その性質を利用し、スリット植栽帯を設け植栽修景を図ることは有効です。用いる植栽の種類例としては、ニチニチソウ、キキョウラン、タマシダ、ヒガンバナ、テンニンギク、ツワブキ、モクビャッコウ、ヤブラン、リュウキュウコスミシなどがあげられます。



資料編 (景観ガイドラインP59)

デザインの Point

- ◆ 赤瓦を活用することで、沖縄らしい風景を形成することができます。また、赤瓦を屋根に活用することで、遮熱効果も期待できます。
- ◆ 壁面や塀・アプローチ空間などに石材を活用することで、圧迫感を和らげつつ風情を感じる効果も期待できます。
- ◆ 花ブロックを活用することで、通りからの視線を遮りながら、採光や通風を確保することができます。
- ◆ 琉球ガラスや焼物などの素材を活用することで、建築物デザインのアクセントに繋がります。

赤瓦の活用事例



赤瓦素材の様々な活用法

石材の活用事例



琉球石灰岩による石垣



石素材を用いた車庫

花ブロックの活用事例



目隠し壁としての活用事例



ひんぷんとしての活用事例

その他の素材の活用事例



琉球ガラスを部分的に活用した事例



花ブロックに琉球ガラスをはめ込んだ事例



陶器を用いて壁の一部分をデコレーションした事例



陶器を用いて柱の一部分をデコレーションした事例

那覇市建築デザインマニュアル・サインデザインマニュアル改定検討委員会
委員名簿

		委員氏名	所属・役職
1	都市 デザイン アドバイザー	赤嶺 雅	那覇市都市デザインアドバイザー 沖縄県立芸術大学 美術工芸学部デザイン工芸学科 教授
2		慶佐次 操	那覇市都市デザインアドバイザー 有限会社 名工企画設計 代表取締役
3		島田 宏光	那覇市都市デザインアドバイザー 有限会社 島田ランドスケープ 代表取締役
4		波多野 想	那覇市都市デザインアドバイザー 琉球大学 観光産業科学部 准教授
5		宮城 敏明	那覇市都市デザインアドバイザー 株式会社 沖縄建設技研 常務取締役
6	関 係 団 体	永吉 英	沖縄県広告美術協同組合 理事長 有限会社 エーツーサイン 代表取締役
7		赤嶺 竜司	沖縄県広告美術協同組合 専務理事 株式会社 昭和制作 代表取締役
8		池間 守	一般社団法人 沖縄県建築士事務所協会 副会長 株式会社 エー・アール・ジー 代表取締役社長
9		金城 傑	公益社団法人 沖縄県建築士会 副会長 有限会社 K・でざいん 代表取締役社長
10		當間 卓	公益社団法人 日本建築家協会 沖縄支部 支部長 株式会社 泉設計 代表取締役社長
11	都市 計画	前原 信達	株式会社 都市科学政策研究所 上席研究員 前那覇市都市景観審議会委員
12	カラー	中島 明美	有限会社デザインワークスオンリーワン 代表取締役 沖縄都市モルールビジュアルデザイン検討委員会委員

※那覇市建築デザインマニュアルの事例写真について

那覇市建築デザインマニュアルで使用している事例写真については、那覇市内の事例を主としていますが、より良い事例を紹介するため、県内外の他市町村等の事例を一部活用しております。また、現状に即した最新の整備事例を紹介するため、事例写真の追加等も、今後行っていく予定です。



那覇市建築デザインマニュアル

平成元年 3 月策定

平成 29 年 3 月改定

那覇市